

第 62 回兵庫県献血推進協議会資料

日 時 令和 8 年 1 月 27 日 (火)
午後 2 時から

場 所 兵庫県薬剤師会館 4 階会議室

兵庫県保健医療部薬務課

目 次

<報告事項>

- I 献血者数等の状況について . . . P2
- II 年代別献血状況について . . . P5
- III 献血普及啓発事業等の実施状況について . . . P7
- IV 血液製剤の適正使用等の推進状況について . . . P10
- V 造血幹細胞移植の普及啓発事業の推進等について . . . P12

<協議事項>

- 令和8年度兵庫県献血等推進計画（案） . . . P28

《 報 告 事 項 》

I 献血者数等の状況について

1 令和6年度における献血者数等の状況

(1) 献血受付者と献血者数

	年間計画	実績	目標達成率	R5 年度実績	R5 年度比
受付者数	233,800 人	234,239 人	100.2%	234,236 人	100.0%
献血者数	207,499 人	209,451 人	100.9%	210,855 人	99.3%

出典：令和6年度兵庫県献血等推進計画、血液事業年度報(日本赤十字社)

(2) 献血方法別献血者数

	年間計画	実績	目標達成率	R5 年度実績	R5 年度比
200mL 献血	3,375 人	4,279 人	126.8%	5,299 人	80.8%
400mL 献血	146,052 人	146,543 人	100.3%	146,968 人	99.7%
血漿成分献血	35,706 人	36,474 人	102.2%	34,701 人	105.1%
血小板成分献血	22,366 人	22,155 人	99.1%	23,917 人	92.6%
献血量(推計)	91,721 L	92,413 L	100.8%	92,286 L	100.1%

出典：令和6年度兵庫県献血等推進計画、血液事業年度報(日本赤十字社)

2 令和7年度12月末における献血者数等の状況

(1) 献血受付者と献血者数

	年間計画	実績	目標達成率	R6 年12月末 実績	R6 年度 同期比
受付者数	230,200 人	176,305 人	76.6%	176,278 人	100.0%
献血者数	207,547 人	158,339 人	76.3%	157,701 人	100.4%

出典：令和7年度兵庫県献血等推進計画、兵庫県赤十字血液センター調べ

(2) 献血方法別献血者数

	年間計画	実績	目標達成率	R6 年12月末 実績	R6 年度 同期比
200mL 献血	2,608 人	3,748 人	143.7%	3,210 人	116.8%
400mL 献血	146,006 人	108,750 人	74.5%	109,796 人	99.0%
血漿成分献血	37,143 人	28,246 人	76.0%	27,703 人	102.0%
血小板成分献血	21,790 人	17,595 人	80.7%	16,992 人	103.5%
献血量(推計)	91,845 L	70,027 L	76.2%	69,620 L	100.6%

出典：令和7年度兵庫県献血等推進計画、兵庫県赤十字血液センター調べ

令和6年度兵庫県献血状況(献血から供給まで)

兵庫県下=29市12町 人口約531万人(R7.4.1現在/推計)

県内血液供給数
585,364 単位
(前年度比 92.2%)
(約410医療機関宛)

献血者数
209,451 人
(前年度比 99.3%)

献血受付者数
234,239 人
(前年度比 100.0%)

※構成比	
男性 147,236 (70.3%)	106,834 (72.6%)
女性 62,215 (29.7%)	577 (0.4%)
成分献血	39,825 (27.0%)
400mL献血	39,709 (63.8%)
200mL献血	3,702 (6.0%)
成分献血	18,804 (30.2%)
献血者内訳	146,543 (70.0%)
200mL献血	4,279 (2.0%)
血漿成分献血	36,474
血小板成分献血	22,155
(成分献血計)	58,629 (28.0%)

検査不合格数
1,501 人
(献血者数の 0.7%)

※対象献血者数比	
梅毒	98 0.05%
HBs抗原	34 0.02%
HBc抗体	142 0.07%
HCV抗体	45 0.02%
肝機能	742 0.35%
不規則抗体	141 0.07%
HTLV-I	58 0.03%
その他	236 0.11%
	重複あり

献血できなかった人数
24,788 人 (10.6%)
(前年度比 106.2%)

※構成比	
男性	147,236 (70.3%)
女性	62,215 (29.7%)

施設 種別	400mL	200mL	成分	合計
兵庫バス	36,070	1,196	0	37,266
豊岡バス	7,324	106	0	7,430
三宮出張所	20,407	452	20,003	40,862
三宮センター街出張所	20,918	1,054	4,755	26,727
新基田出張所	1,986	108	6,561	8,655
西宮出張所	13,513	287	6,270	20,070
尼崎出張所	7,983	201	9,268	17,452
姫路バス	23,365	308	0	23,673
姫路駅前通出張所	14,977	567	11,772	27,316
合計	146,543	4,279	58,629	209,451

製剤・区分	400mL(本)	200mL(本)	成分(本)	単位換算合計	前年度比	構成比
全血	0	0		0		0.0%
赤血球	113,360	3,567		230,287	99.0%	39.3%
血漿	30,820	334	5,597	84,362	97.1%	14.4%
血小板			27,030	270,715	97.9%	46.2%
計	144,180	3,901	32,627	585,364	98.2%	
前年度比	99.2%	75.4%	97.7%			
単位換算	288,360	3,901	293,103			
構成比	49.3%	0.7%	50.1%			

※平成31年4月より丹波市および丹波篠山市内の医療機関への輸血用血液製剤供給業務を京都府赤十字血液センターに移管。供給数は京都府赤十字血液センターからの供給分を含む。

2 献血場所・回数別の献血の状況等

(1) 献血場所別献血者数

	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度12月末	
	献血者 (人)	構成比	献血者 (人)	構成比	献血者 (人)	構成比	献血者 (人)	構成比	献血者 (人)	構成比
献血バス	67,800	31.3%	64,907	30.2%	67,156	31.8%	67,483	32.2%	51,333	32.4%
ルーム	147,933	68.3%	149,113	69.4%	142,858	67.7%	141,082	67.4%	106,274	67.1%
オープン	834	0.4%	860	0.4%	871	0.4%	886	0.4%	732	0.5%
合計	216,567	100.0%	214,880	100.0%	210,885	100.0%	209,451	100.0%	158,339	100%

出典：血液事業年度報(日本赤十字社)、兵庫県赤十字血液センター調べ

(2) 令和6年度献血回数別献血者数

	献血バス	ルーム	オープン	人数計
1回	33,225人	32,089人	770人	61,566人
2回	12,160人	14,180人	58人	26,938人
3回	3,298人	8,242人	0人	12,292人
4回以上	11人	6,971人	0人	7,181人

出典：兵庫県赤十字血液センター調べ

(3) 令和6年度新規・再来別献血者

	献血者数	新規献血者数	再来献血者数
人数	209,451人	10,374人	199,077人
構成比	100.0%	5.0%	95.0%

出典：兵庫県赤十字血液センター調べ

(4) 献血ができなかった人数の理由別推移

	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度12月末	
	人数 (人)	構成比	人数 (人)	構成比	人数 (人)	構成比	人数 (人)	構成比	人数 (人)	構成比
血色素	10,923	45.8%	10,180	42.8%	9,890	42.4%	11,677	47.1%	9,119	50.8%
血圧	1,706	7.2%	1,667	7.0%	1,612	6.9%	1,557	6.3%	1,024	5.7%
服薬	1,278	5.4%	1,385	5.8%	1,676	7.2%	1,735	7.0%	1,385	7.7%
問診等その他	9,950	41.7%	10,578	44.4%	10,173	43.5%	9,819	39.6%	6,438	35.8%
合計	23,857	100.0%	23,810	100.0%	23,351	100.0%	24,788	100.0%	17,966	100%

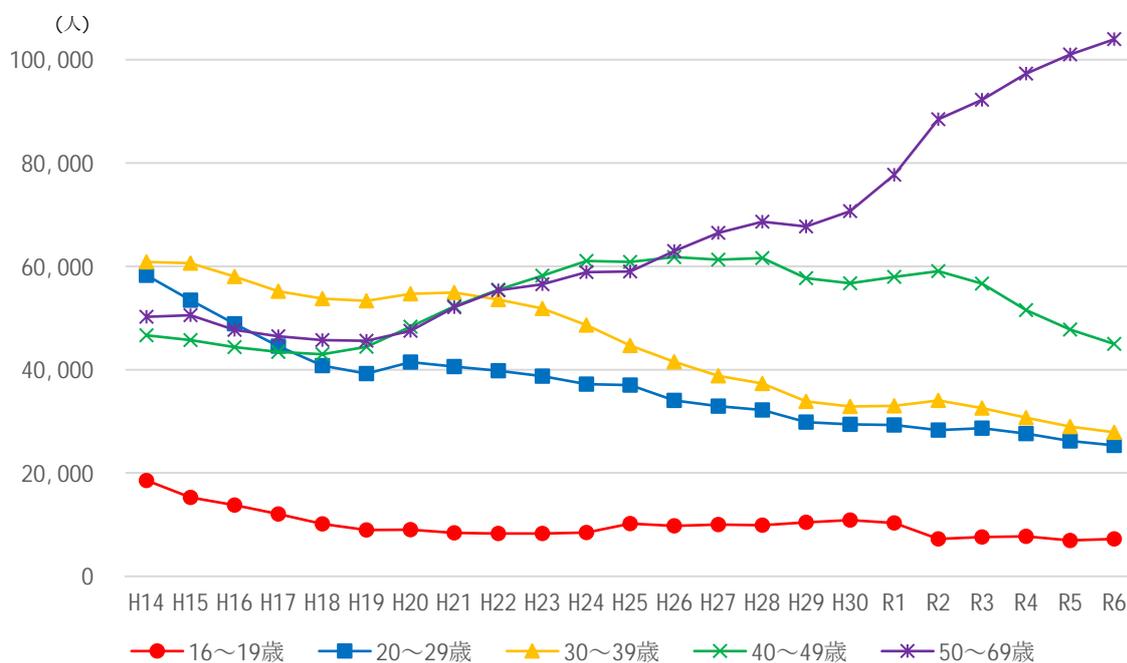
※ 構成比は端数処理しているため、合計が必ずしも100%にならない。

※ 「問診等その他」は、B型・C型肝炎ウイルス、ヒト免疫不全ウイルスの持続保有者、欧州での長期滞在経験者、海外旅行直後の者及び体重不足などである。

出典：血液事業年度報(日本赤十字社)、兵庫県赤十字血液センター調べ

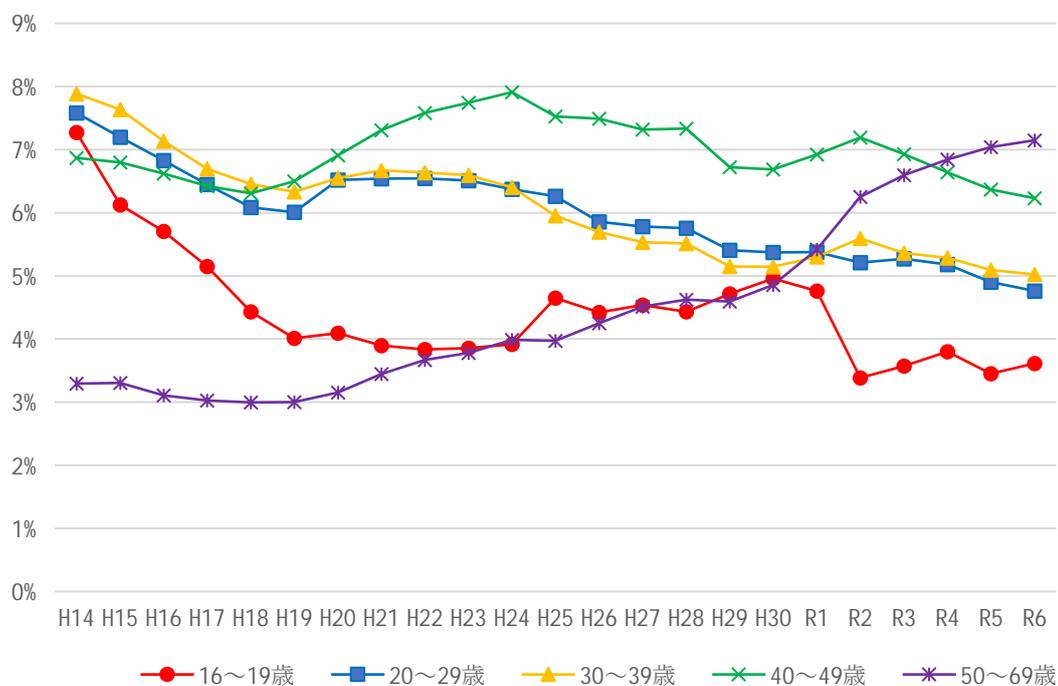
Ⅱ 年代別献血状況について

1 県内の年代別献血者数の推移



血液事業年報（日本赤十字社）から作成

2 県内の年代別献血率の推移



血液事業年報（日本赤十字社）と住民基本台帳から作成

3 令和6年度年代別献血者数等

	16～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～69歳	合計
200mL 献血	2,024	889	246	351	769	4,279
400mL 献血	4,721	19,674	20,944	32,035	69,169	146,543
血漿成分献血	410	3,366	4,050	7,168	21,480	36,474
血小板成分献血	108	1,427	2,653	5,432	12,535	22,155
献血者数	7,263	25,356	27,893	44,986	103,953	209,451
構成比	3.5%	12.1%	13.3%	21.5%	49.6%	
年代別献血率	3.6%	4.8%	5.0%	6.2%	7.1%	

※ 構成比は端数処理しているため、合計が必ずしも100%にならない。

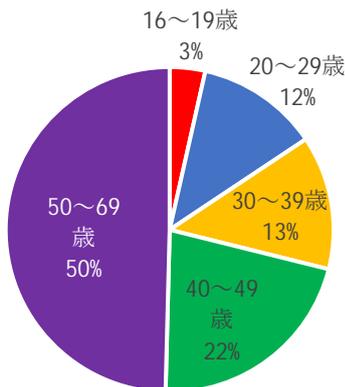
出典：令和6年度兵庫県献血等推進計画、血液事業年度報(日本赤十字社)、兵庫県赤十字血液センター調べ

4 献血推進に係る中期目標、年代別献血者数目標との比較

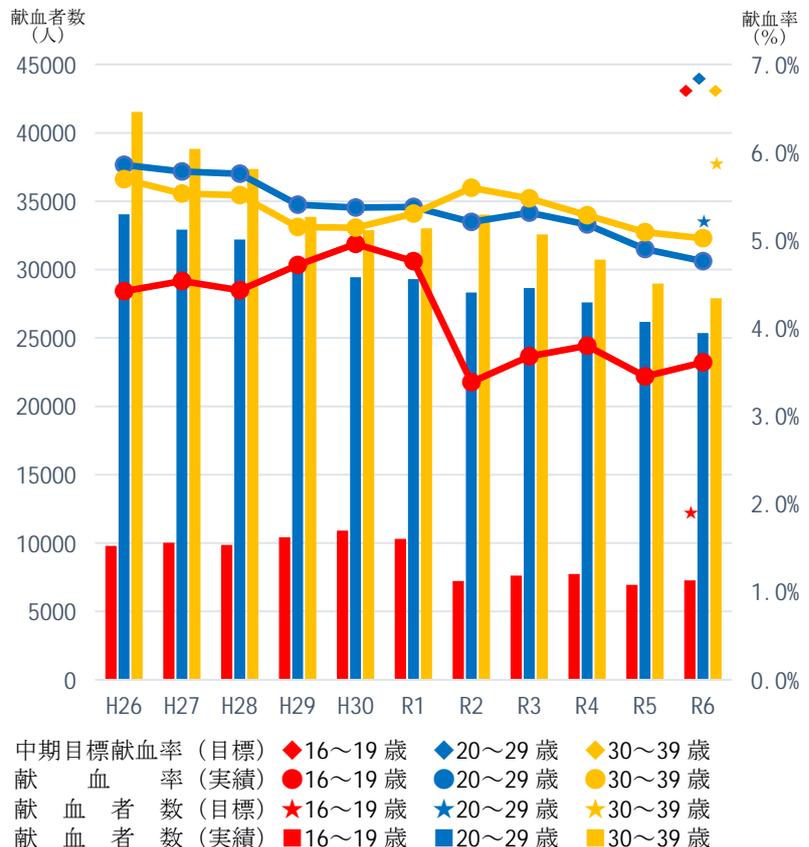
	16～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～69歳
国献血推進2025(R7)中期目標献血率	6.6%	6.8%	6.6%		
県年代別献血者数(R6)目標 (A)	12,315人	33,587人	37,715人		
県年代別献血者数(R6)実績 (B)	7,263人	25,356人	27,893人	44,986人	103,953人
県年代別献血率(R6)実績	3.6%	4.8%	5.0%	6.2%	7.1%
目標に対する実績比(R6) (B)/(A)	59.0%	75.5%	74.0%		

出典：令和6年度兵庫県献血等推進計画、血液事業年度報(日本赤十字社)

令和6年度年代別献血者 構成比



献血推進に係る中期目標、年代別献血者数目標との比較



Ⅲ 献血普及啓発事業等の実施状況について

1 献血推進キャンペーンの実施

(1) 愛の血液助け合い運動（7月：全国一斉）

- ・ 市町、公共施設等における啓発ポスター等の一斉掲示
- ・ 県、市町の広報誌等による広報活動の実施

(2) はたちの献血キャンペーン（1～2月：全国一斉）

- ・ 市町、公共施設等における啓発ポスター等の一斉掲示
- ・ 各市町における広報誌等による広報活動の実施

2 大学生ボランティア献血推進イベント事業

兵庫県学生献血推進協議会が中心となって企画したイベントを県内各地で実施。

【令和6年度に実施した主なイベント】

活動日	イベント名	実施場所
8月10日	サマーキャンペーン	ミント神戸 15 献血ルーム
12月7日	全国学生クリスマス献血キャンペーン	西神プレンティ中央広場
12月14日	全国学生クリスマス献血キャンペーン	姫路みゆき献血ルーム
2月23日	和歌山県学生献血推進協議会 合同キャンペーン	塚口さんさんタウン献血ルーム
3月2日	近畿統一キャンペーン	ミント神戸 15 献血ルーム 三宮センタープラザ mi namo 献血 ルーム

出典：兵庫県赤十字血液センター調べ

【令和7年度に実施した主なイベント】

活動日	イベント名	実施場所
6月22日	大阪関西万博献血ミライ会議	夢洲 大阪関西万博会場
8月4日	学生献血推進団体意見交流会	兵庫県赤十字血液センター
8月6日	サマーキャンペーン	三宮センタープラザ mi namo 献血ルーム
12月21日	全国学生クリスマス献血キャンペーン	ミント神戸 15 献血ルーム
3月7日	近畿統一キャンペーン（予定）	ミント神戸 15 献血ルーム 三宮センタープラザ mi namo 献血ルーム

出典：兵庫県赤十字血液センター調べ

3 若年層に対する献血普及啓発

(1) 高校生献血推進ボランティア事業

- ・ 主に文化祭の場を活用し、献血啓発コーナーの設置やパネル展示等の啓発活動を行う。
- ・ 同年代の生徒からの呼びかけにより、高校生の献血への理解を図る。
- ・ 令和6年度は6校、7年度は5校実施

【令和6年度実施校】

県立福崎高校、県立播磨南高校、県立日高高校、県立淡路三原高等学校、市川高校、神崎高等学校

※ 県立芦屋国際中等教育学校で県主催のパネル展示を実施

【令和7年度実施校】

県立尼崎高校、県立福崎高校、県立日高高校、市川高校、県立西脇高校

※ 県立芦屋国際中等教育学校で県主催のパネル展示を実施

(2) 献血セミナー

- ・ 兵庫県赤十字血液センター職員や学生献血推進協議会の学生が講師となり、献血を通じた命の大切さ等を伝える出前講座を実施。

	令和6年度	令和7年度 (12月末)
小学校	8校	1校
中学校	13校	6校
高等学校	36校	29校
大学・専門学校	15校	18校
企業・団体等	14校	12件

※校数は延べ数 出典：兵庫県赤十字血液センター調べ

(3) 高校生・大学生献血の推進

高等学校・大学等に献血バスを配車し献血を実施。

	令和6年度	令和7年度 (12月末)
高等学校	13校	11校
大学・専門学校	60校	59校

※校数は延べ数 出典：兵庫県赤十字血液センター調べ

(4) 広報媒体を用いた広報

ア Web サイト

兵庫県、兵庫県赤十字血液センター、各市町のホームページで随時情報提供

イ SNS の活用

兵庫県赤十字血液センターにおいて、X・Instagramによる情報発信を実施

(5) 複数回献血の推進

日本赤十字社では、平成18年に「複数回献血クラブ」を設立し、継続的に献血に協力いただける方を募集してきた。

平成30年10月に、献血者へのサービス向上を目的として、献血Web会員サービス「ラブラッド」へとリニューアルし、令和4年9月には「ラブラッド」のアプリが新たにリリースされた。

	令和6年度	令和7年12月現在
登録会員数※	17,111	13,589

※ ラブラッドで兵庫県を献血地域に選択している会員数

(6) 献血功労者に対する顕彰

ア 表彰・感謝状の贈呈（令和7年度実績）

- ・ 厚生労働大臣表彰受賞者 3団体
- ・ 厚生労働大臣感謝受賞者 6団体
- ・ 兵庫県献血推進協議会長感謝状受賞者 8団体

イ 選考基準

(ア) 厚生労働大臣表彰

20年以上にわたり組織的に献血に協力し、かつ、成分献血・400mL献血に積極的に協力している団体

(イ) 厚生労働大臣感謝

10年以上にわたり組織的に献血に協力している団体

(ウ) 兵庫県献血推進協議会長感謝

① 8年以上にわたり県内で献血に協力し。下記に該当する団体

- a 当該団体に属する献血者が毎年概ね50人以上。
- b 成分献血、400mL献血に積極的に協力し、また、血液確保が難しい時期等に積極的に協力している。
- c 高等学校については、一年間の献血者数が概ね30人以上。

② 献血運動普及のための広報活動等を10年以上、継続的かつ積極的に実施している団体又は個人

Ⅳ 血液製剤の適正使用等の推進状況について

血液製剤の適正使用等の推進のために、輸血療法の専門家で構成する兵庫県合同輸血療法委員会（事務局：兵庫県赤十字血液センター）と連携し、県内医療機関の輸血従事者を対象に研修会を開催するなど。安全かつ適正な輸血療法の推進と血液製剤の適正使用等の推進を図っている。

1 令和7年度血液製剤使用適正化方策調査研究事業

(1) 研究課題名

- ① 県内医療機関での輸血に関する質問対応窓口の整備
- ② 在宅輸血における遠隔輸液管理システムの改良

(2) 研究目的

- ① 県内医療機関での輸血に関する質問対応窓口の整備

日本の輸血医療は、各種マニュアルに従って各施設で安全かつ有効な輸血療法が実施されることが期待されているが、すべての輸血業務に言及しているわけではなく、検査方法に関しては詳しい規定がない。特に、小規模医療機関では、人的資源や物的（機材や試薬）資源不足に起因する疑問点や問題点が生じる場合があり、施設内で解決できない場合がある。そこで、質問対応窓口を設置し、認定輸血検査技師、学会認定・臨床輸血看護師が輸血に関する質問にメールで回答していくことで、医療機関の疑問を解決し、さらに、疑問点の共有と精度のある解決策を提案することで、兵庫県全体の医療機関の輸血業務の質が担保されることを目的とする。

- ② 在宅輸血における遠隔輸液管理システムの改良

高齢患者や頻繁に通院が困難な輸血を要する患者にとって、在宅輸血のメリットは大きい。しかし、輸血などの点滴の管理は、病棟とは違い常に医療者が付き添っているわけでない。在宅輸血の手順として、輸血開始時に点滴速度を調整して、終了予定時に合わせて、訪問看護師が患者宅を訪問する運用をしているが、トイレ移動や体の向きなどで点滴の流速が途中で変化し、大幅に終了時間がずれることがある。また、場合によっては、滴下が止まってしまい、安全に輸血が実施できないことがある。多忙なスケジュールで動いている訪問看護師にとって、点滴終了時間のずれは、前後の訪問予定にも影響するため、正確な点滴終了時間が遠隔でリアルタイムで把握可能で、滴下不良を検出できることは、訪問看護の効率化と安全な輸血に有用である。

これまでに開発した「在宅での輸血管理を遠隔でモニターし、輸血の滴下不良の検出や輸血終了時間を推測するシステム」では、終了予定時間の誤差が大きく、十分に訪問看護師の患者訪問の効率化や輸血の安全性向上に寄与できなかったため、本研究では、終了予定時間を計算するアルゴリズム改良し、精度を向上した上で安全性向上や効率化に寄与するか検証することを目的とする。

2 兵庫県合同輸血療法委員会の開催

兵庫県合同輸血療法委員会で、兵庫県内の医療機関における適切な輸血療法実施体制の確立と血液製剤の使用適正化に向けた協議及び課題把握を行い、血液製剤使用適正化方策調査研究事業の内容を協議・決定した。

3 兵庫県輸血医療従事者研修会の実施（令和8年1月10日開催）

医療機関における輸血療法実施体制の確立と血液製剤の適正使用等を推進するため、兵庫県合同輸血療法委員会、兵庫県、兵庫県赤十字血液センターが共同で、県内の輸血医療従事者に研修会を開催した（詳細は下記参照）。

令和7年度兵庫県合同輸血医療従事者研修会の概要

1 日 時 令和8年1月10日（土） 午後1時～3時40分

2 場 所 Microsoft Teamsを利用した配信

3 主催（共催）

兵庫県合同輸血療法委員会、兵庫県赤十字血液センター、兵庫県、
（一社）日本輸血・細胞治療学会近畿支部

4 後 援

（一社）兵庫県医師会、（一社）兵庫県病院協会、（一社）兵庫県民間病院協会、
（公社）兵庫県臨床検査技師会、（公社）兵庫県看護協会、（一社）兵庫県病院薬剤師会

5 参加者 県内輸血医療従事者140名

6 内 容

(1) 血液製剤の使用実態について

兵庫県保健医療部薬務課

(2) 兵庫県赤十字血液センターからの情報提供

兵庫県赤十字血液センター

(3) 兵庫県合同輸血療法委員会活動報告

・兵庫県合同輸血療法委員会

「訪問看護と連携した在宅輸血における遠隔輸液モニターの有用性評価」

和歌山県立医科大学附属病院 医療情報部 教授

医療法人 赤坂クリニック

西川 彰則 先生

・臨床検査技師ワーキンググループ

「兵庫県における輸血機能評価認定制度(I&A 制度)の現状について」

神戸学院大学 栄養学部臨床検査学専攻 准教授

坊池 義浩 先生

・看護師ワーキンググループ

「病院機能評価 ver.3.0 を受審して -輸血部門での高評価のポイントは?-」

神戸市立医療センター中央市民病院 看護部

竹内 志津枝 先生

(4) 情報提供「免疫グロブリン製剤の使用実態について」

座長：兵庫県立こども病院 血液・腫瘍内科部長

石田 敏章 先生

演者：北播磨総合医療センター 血液・腫瘍内科部長

杉本 健 先生

(5) 講演「小児で大量ガンマグロブリン療法が標準治療となっている川崎病の病態と課題」

座長：兵庫県立こども病院 血液・腫瘍内科部長

石田 敏章 先生

演者：兵庫県立こども病院 リウマチ科医長

水田 麻雄 先生

V 造血幹細胞移植の普及啓発事業の推進等について

1 全国の骨髄バンク事業の状況

(1) 骨髄移植希望者（患者数）登録者数（令和7年12月末現在）

ア 都道府県別登録状況

都道府県名	累計登録	現在登録
北海道	2,714	41
青森県	428	11
秋田県	388	11
岩手県	460	12
宮城県	957	29
山形県	429	15
福島県	816	24
茨城県	1,176	16
栃木県	966	22
群馬県	905	18
埼玉県	3,371	88
千葉県	2,816	58
東京都	6,061	176
神奈川県	3,633	79
新潟県	819	11
山梨県	358	9
長野県	1,013	24
富山県	572	11
石川県	611	12
福井県	319	8
岐阜県	832	14
静岡県	1,534	34
愛知県	3,539	61
三重県	788	12
滋賀県	658	16
京都府	1,333	31
大阪府	4,481	122
兵庫県	2,499	47
奈良県	635	11
和歌山県	538	9
鳥取県	334	4
島根県	480	5
岡山県	978	9
広島県	1,330	11
山口県	491	8
徳島県	381	27
香川県	598	14
愛媛県	659	6
高知県	360	2
福岡県	2,679	47
佐賀県	333	4
長崎県	467	5
熊本県	591	8
大分県	713	5
宮崎県	542	12
鹿児島県	887	20
沖縄県	512	12
国内合計	57,984	1,231
海外	14,813	534
合計	72,797	1,765

出典：（公財）日本骨髄バンク HP

イ 年齢別登録状況

年齢	累計登録数			現在登録数		
	国内	海外	合計	国内	海外	合計
0～5歳	2,908	1,370	4,278	52	27	79
6～15歳	5,042	2,086	7,128	59	41	100
16～25歳	6,343	2,069	8,412	74	48	122
26～35歳	7,031	2,067	9,098	100	47	147
36～45歳	9,326	2,208	11,534	141	56	197
46～55歳	11,469	2,344	13,813	254	96	350
56～65歳	12,904	1,994	14,898	378	117	495
66歳以上	2,961	675	3,636	173	102	275
合計	57,984	14,813	72,797	1,231	534	1,765

出典：（公財）日本骨髄バンク HP

ウ 疾患別登録状況

疾患名	累計登録数			現在登録数		
	国内	海外	合計	国内	海外	合計
急性骨髄性白血病	19,221	4,870	24,091	421	184	605
急性リンパ性白血病	11,310	2,941	14,251	233	78	311
慢性骨髄性白血病	3,529	979	4,508	38	15	53
骨髄異形成症候群	9,367	1,711	11,078	266	90	356
その他の白血病	2,513	146	2,659	29	5	34
骨髄増殖性疾患(MPD)	803	302	1,105	35	20	55
リンパ系悪性腫瘍(LBL含む)	5,773	1,217	6,990	92	47	139
※形質細胞性腫瘍	650	214	864	9	2	11
固形腫瘍	29	18	47	0	1	1
再生不良性貧血	3,038	1,455	4,493	60	49	109
発作性夜間血色素尿症(PNH)	28	33	61	1	2	3
先天性造血障害	204	335	539	9	11	20
EBV感染関連	357	7	364	5	0	5
血球貧食症候群(HPS),(LCH)	142	127	269	1	4	5
先天性代謝異常	273	98	371	6	7	13
原発性免疫不全症	552	308	860	10	15	25
その他	195	52	247	16	4	20
合計	57,984	14,813	72,797	1,231	534	1,765

※登録疾患の表示方法が変更となり、これまでの多発性骨髄腫を形質細胞性腫瘍と表示しています。

出典：（公財）日本骨髄バンク HP

エ 移植希望者数の推移（各年12月末）

	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
兵庫県	54	61	45	54	47
国内合計	1,248	1,219	1,168	1,159	1,231
海外	496	466	474	552	534
合計	1,744	1,685	1,642	1,711	1,765

出典：（公財）日本骨髄バンク HP

(2) 骨髄提供希望者（ドナー）登録者数

月	令和3年		令和4年		令和5年		令和6年		令和7年	
	月間	登録者数								
1月	2,712	529,708	2,452	538,435	2,582	543,821	3,072	553,446	2,402	562,678
2月	2,431	530,326	2,095	538,181	2,647	544,334	2,654	553,895	2,187	562,662
3月	2,557	530,953	2,483	537,820	2,287	544,305	2,544	554,123	2,163	562,452
4月	2,892	532,030	2,930	538,098	3,358	545,422	3,486	555,442	3,250	563,260
5月	2,671	533,074	2,798	538,501	2,772	545,870	3,026	556,160	2,906	563,885
6月	2,492	533,894	2,673	539,017	2,948	546,679	3,091	557,148	2,748	564,425
7月	2,860	533,938	3,243	539,855	2,985	547,318	2,950	557,805	2,766	564,633
8月	2,618	534,659	2,822	540,451	2,671	547,708	2,599	558,241	2,312	564,613
9月	2,449	535,370	2,862	541,220	3,225	548,691	2,828	558,988	2,187	564,558
10月	2,984	536,642	3,840	542,926	3,990	550,559	4,878	561,673	3,576	565,858
11月	3,254	538,163	3,072	543,957	3,772	552,309	3,478	563,116	2,701	566,443
12月	3,121	538,618	2,751	543,694	3,121	552,810	2,735	562,867	2,449	565,837
新規	33,041		34,021		36,358		37,341		31,647	

※数値は速報値のため、前月および次月と異なる場合がある。

※「月間」は、新規登録者数を示す。

※「登録者数」は、登録を取り消しされた方の数を除いた現在有効登録者数を示す。

※「新規」は、新規登録者数の合計を示す。

出典：（公財）日本骨髄バンク HP

(3) HLA 適合患者・ドナーの状況（令和7年12月末現在）

患者の状況		ドナーの状況	
患者登録数(累計)	72,797	登録受付ドナー数(累計)	1,019,827
患者登録現在数	1,765	ドナー登録現在数	565,837
(うち国内登録患者現在数)	1,231	HLA 適合報告ドナー数	405,955
HLA 適合患者数(累計)	57,809		

※ 患者登録現在数は、患者登録数(累計)から登録取消された患者数及び移植実施患者数を引いた数

※ HLA 適合とは、HLA 型の A 座・B 座・DR 座の 6 抗原のうち 5 抗原以上が一致あるいは非常に類似している抗原であることを指している。

※ HLA 適合報告ドナー数は複数回適合したドナーの数を差し引いた実適合ドナー数を示す。

出典：（公財）日本骨髄バンク

(4) 非血縁者間移植実施数

月	令和3年		令和4年		令和5年		令和6年		令和7年	
	月間	移植数								
1月	81	25,120	78	26,299	67	27,350	80	28,468	80	29,498
2月	97	25,217	83	26,382	79	27,429	100	28,568	88	29,586
3月	113	25,330	121	26,503	129	27,558	84	28,652	91	29,677
4月	104	25,434	87	26,590	91	27,649	91	28,743	82	29,759
5月	71	25,505	89	26,679	92	27,741	88	28,831	84	29,843
6月	116	25,621	107	26,786	118	27,859	79	28,910	80	29,923
7月	106	25,727	87	26,873	99	27,958	84	28,994	105	30,028
8月	100	25,827	84	26,957	77	28,035	91	29,085	91	30,119
9月	94	25,921	90	27,047	93	28,128	82	29,167	79	30,198
10月	97	26,018	89	27,136	88	28,216	103	29,270	108	30,306
11月	104	26,122	79	27,215	90	28,306	85	29,355	98	30,404
12月	99	26,221	68	27,283	82	28,388	63	29,418	69	30,473
合計	1,182		1,062		1,105		1,030		1,055	

※ 移植数には、海外ドナーからの移植数（海外で採取、国内で移植）が含まれている。

出典：（公財）日本骨髄バンク HP

(5) 骨髄ドナー 都道府県別登録者数（令和7年12月末現在）

	血液センター登録数						登録対象年齢人口における登録者数	
	12月登録数	12月取消数	純増数	登録者数			20～54歳 人口(千人) B	対象人口千人当り における登録者(人) A/B
				総数	18～19歳	20～54歳 A		
北海道	51	105	▲ 54	15,786	75	15,711	2,018	7.79
青森	24	44	▲ 20	10,886	82	10,804	444	24.34
秋田	3	15	▲ 12	2,407	5	2,402	319	7.53
岩手	30	23	7	3,035	15	3,020	435	6.95
宮城	42	93	▲ 51	19,386	94	19,292	950	20.31
山形	39	54	▲ 15	8,645	31	8,614	378	22.81
福島	46	78	▲ 32	13,989	91	13,898	691	20.12
茨城	19	44	▲ 25	7,964	33	7,931	1,192	6.66
栃木	21	93	▲ 72	16,622	48	16,574	799	20.75
群馬	108	55	53	7,857	193	7,664	790	9.71
埼玉	94	146	▲ 52	28,316	259	28,057	3,289	8.53
千葉	169	115	54	22,781	307	22,474	2,784	8.07
東京	230	358	▲ 128	71,952	622	71,330	6,919	10.31
神奈川	142	189	▲ 47	30,981	469	30,512	4,179	7.30
新潟	24	62	▲ 38	8,373	47	8,326	819	10.16
山梨	5	15	▲ 10	1,971	2	1,969	317	6.21
長野	18	34	▲ 16	5,200	18	5,182	789	6.57
富山	17	24	▲ 7	4,898	39	4,859	405	11.99
石川	22	34	▲ 12	4,671	80	4,591	454	10.11
福井	7	13	▲ 6	1,898	3	1,895	297	6.38
岐阜	52	38	14	6,867	137	6,730	790	8.52
静岡	39	60	▲ 21	9,063	22	9,041	1,463	6.18
愛知	109	126	▲ 17	21,317	152	21,165	3,375	6.27
三重	32	25	7	4,154	22	4,132	716	5.77
滋賀	33	40	▲ 7	8,669	85	8,584	605	14.20
京都	90	95	▲ 5	20,190	208	19,982	1,048	19.07
大阪	323	210	113	40,933	500	40,433	3,910	10.34
兵庫	123	124	▲ 1	20,369	197	20,172	2,248	8.97
奈良	39	25	14	5,892	53	5,839	512	11.40
和歌山	7	25	▲ 18	5,727	44	5,683	345	16.48
鳥取	8	11	▲ 3	2,694	54	2,640	205	12.89
島根	17	26	▲ 9	5,697	83	5,614	238	23.59
岡山	30	45	▲ 15	9,505	139	9,366	754	12.42
広島	133	70	63	11,604	136	11,468	1,134	10.12
山口	4	23	▲ 19	3,638	48	3,590	489	7.35
徳島	10	9	1	2,320	12	2,308	268	8.60
香川	14	29	▲ 15	4,475	29	4,446	379	11.73
愛媛	6	40	▲ 34	5,251	30	5,221	500	10.45
高知	7	20	▲ 13	4,188	58	4,130	247	16.69
福岡	56	133	▲ 77	23,038	107	22,931	2,172	10.56
佐賀	26	35	▲ 9	5,865	39	5,826	308	18.93
長崎	24	51	▲ 27	7,258	67	7,191	467	15.38
熊本	86	47	39	11,907	197	11,710	656	17.84
大分	12	15	▲ 3	3,715	2	3,713	422	8.79
宮崎	22	26	▲ 4	5,258	23	5,235	390	13.43
鹿児島	14	25	▲ 11	4,950	29	4,921	574	8.57
沖縄	22	88	▲ 66	23,675	57	23,618	636	37.15
全国	2,449	3,055	▲ 606	565,837	5,043	560,794	53,122	10.56

- ※ 数値は速報値のため、前月および次月数値と若干異なる場合がある。
- ※ 血液センター登録数は、ドナー居住地域別ではなく、血液センター所在地域別に集計している。
- ※ 血液センター登録数の今月分は、新規登録者数を示す。
- ※ 血液センター登録数の取消数は、年齢超過などによる登録取消者数を示す。
- ※ 血液センター登録数の純増数は、登録数から取消数を差し引いた人数を示す。
- ※ 血液センター登録数の登録者数の総数は、18歳から54歳までの登録者現在数を示す。
- ※ 血液センター登録者累計数は、1,019,827名となる。
- ※ 20～54歳人口は、2024年1月1日住民基本台帳年齢階級別人口[都道府県別]（e-Stat/政府統計ポータルサイトより）を使用して計算したもの。
- ※ 18歳および19歳の単独での人口は公表されていないため、20歳から54歳の人口で計算している。

出典：（公財）日本骨髄バンク HP

(6) 都道府県別移植患者・骨髄提供者数（令和7年12月末現在）

	患者居住地	移植数	提供者居住地	採取数
北海道	1,465	1,466	1,529	1,523
青森県	188	147	260	249
秋田県	214	214	175	199
岩手県	196	170	208	201
宮城県	409	425	642	745
山形県	230	187	246	182
福島県	390	272	427	373
茨城県	624	411	612	566
栃木県	514	582	586	465
群馬県	508	441	357	348
埼玉県	1,877	1,114	1,541	964
千葉県	1,422	962	1,336	1,159
東京都	3,106	5,340	3,255	4,657
神奈川県	1,822	1,522	2,032	1,622
新潟県	398	384	585	543
山梨県	203	78	162	140
長野県	569	513	411	400
富山県	303	307	280	272
石川県	325	371	361	451
福井県	163	59	197	117
岐阜県	399	120	465	171
静岡県	861	746	753	748
愛知県	1,768	2,414	1,748	2,088
三重県	383	247	365	320
滋賀県	359	251	404	274
京都府	699	860	914	941
大阪府	2,293	2,543	1,747	2,223
兵庫県	1,225	1,007	1,292	1,105
奈良県	305	246	328	236
和歌山県	276	205	261	192
鳥取県	187	180	188	216
島根県	263	221	317	288
岡山県	546	790	559	754
広島県	830	853	762	729
山口県	268	153	331	244
徳島県	210	193	164	152
香川県	329	231	251	208
愛媛県	418	431	291	318
高知県	207	138	185	139
福岡県	1,388	1,844	1,419	1,765
佐賀県	190	27	252	167
長崎県	252	181	285	273
熊本県	315	294	433	415
大分県	384	331	300	297
宮崎県	248	146	222	191
鹿児島県	395	386	326	355
沖縄県	242	163	529	308
国内合計	30,166	30,166	30,293	30,293
海外	307	307	204	204

※ 採取されたものの移植に至らなかった件数と翌月移植件数件が含まれているため、移植数と採取数は一致しない。

出典：（公財）日本骨髄バンク HP

2 県内の骨髄バンク事業の状況

(1) 県内の骨髄ドナー登録受付者数と有効登録者数の年次推移

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度※
登録受付者数	1,061	1,092	1,320	1,137	749
有効登録者数	20,300	20,242	20,465	20,485	20,369
累計登録者数	34,298	35,390	36,710	37,847	38,596

※ 令和7年度は12月末までの速報値

出典：（公財）日本骨髄バンク HP

(2) 令和7年の月別県内ドナー登録状況

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
登録受付者数	94	105	109	92	102	92	109	94	85	93	74	124
有効登録者数	20,565	20,541	20,484	20,490	20,428	20,428	20,392	20,365	20,339	20,360	20,369	20,368

出典：（公財）日本骨髄バンク HP

(3) 非血縁者間移植等の直近10年間の実施状況（2015～2024年度）

		移植数	採取数
	神戸市立医療センター中央市民病院	81	57
	神戸大学医学部附属病院	68	97
	兵庫医科大学病院	27	103
	兵庫県立こども病院(採取免除認定施設)	57	—
	兵庫県立がんセンター	41	68
	社会医療法人神鋼記念会神鋼記念病院	21	34
	兵庫県立尼崎医療センター	40	23
	姫路赤十字病院	4	26
	計	339	408
全国	計	11,614	11,635

※日本骨髄バンクを介したもの

出典：（公財）日本骨髄バンク HP

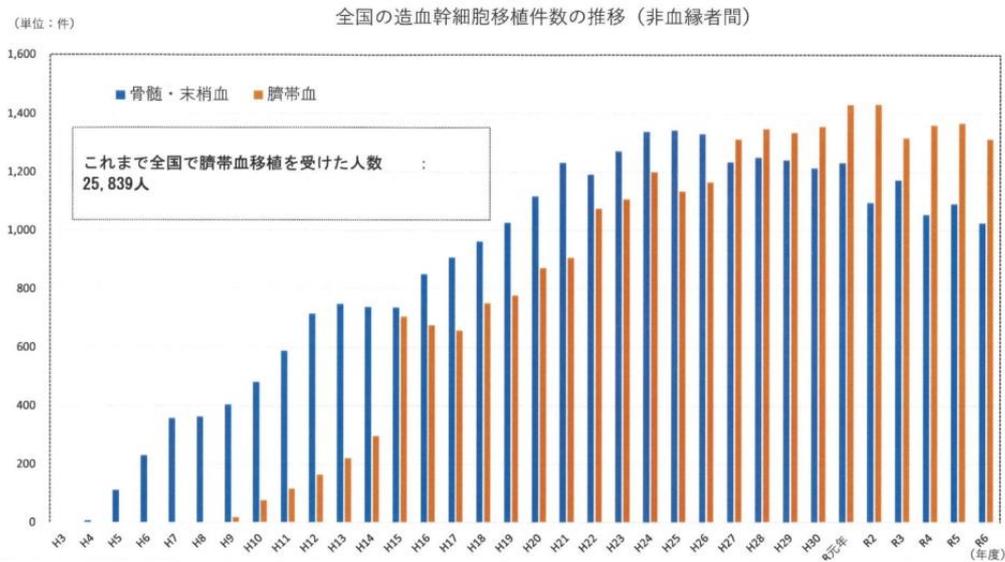
3 臍帯血バンクの状況

(1) 各バンク別臍帯血保存公開状況（令和8年1月1日現在）

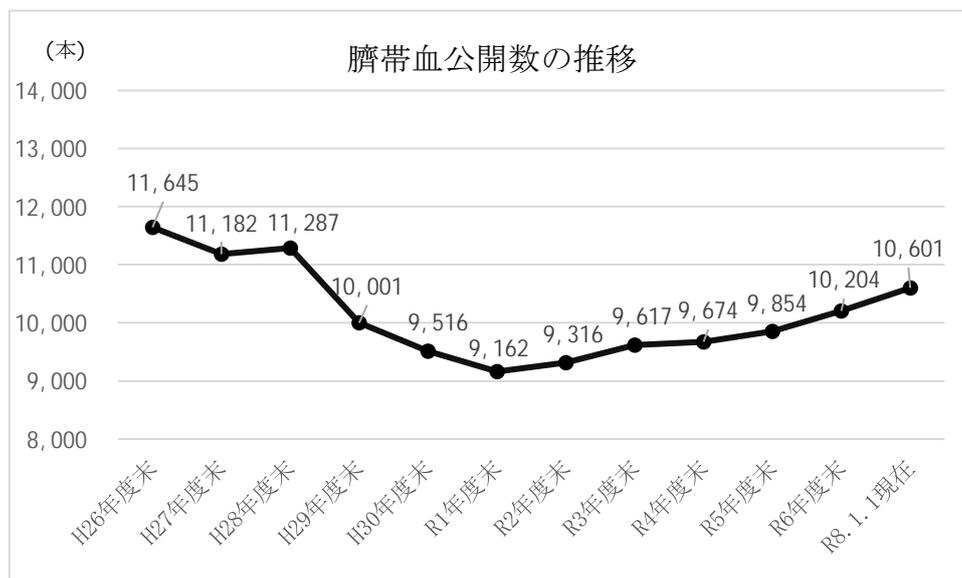
管理バンク名	公開本数
日本赤十字社北海道さい帯血バンク	1,306
日本赤十字社関東甲信越さい帯血バンク	3,622
中部さい帯血バンク	2,298
日本赤十字社近畿さい帯血バンク	1,342
兵庫さい帯血バンク	1,276
日本赤十字社九州さい帯血バンク	757
合 計	10,601

※ 各バンクの保存さい帯血の中で、検索の対象となっているさい帯血数
 （健康調査票による合否判定前の保存さい帯血、すでに申込みがあったさい帯血数は含まない）

出典：造血幹細胞移植情報サービス



出典：認定NPO法人兵庫さい帯血バンク



出典：造血幹細胞移植情報サービス

(2) 各臍帯血バンクの移植に用いた臍帯血本数

<年度集計>

年	日赤北海道		日赤関東甲信越				中部	日赤近畿	兵庫	日赤九州		合計
	日赤北海道	宮城	東京	日赤関東甲信越	神奈川*1	東海大学				中国四国	日赤九州	
1996年度	0	0	0	0	1 (1)	0	0	0	0	0	0	1
1997年度	0	0	0	0	6 (3)	4	5	0	4	0	0	19
1998年度	5	0	6	1	22 (16)	6	16	0	18	0	3	77
1999年度	21	0	29	8	19 (10)	8	17	0	10	0	5	117
2000年度	31	0	36	17	8 (5)	12	38	0	15	5	3	165
2001年度	47	0	42	4	5	34	31	0	44	7	7	221
2002年度	64	1	49	32	5	50	33	0	44	12	7	297
2003年度	116	5	109	121	19	127	57	6	102	30	13	705
2004年度	110	11	84	112	29	152	40	24	63	28	23	676
2005年度	57	14	115	104	29	104	33	49	90	36	27	658
2006年度	66	17	135	111	34	123	52	67	78	26	43	752
2007年度	72	15	145	109	16	65	56	125	108	26	41	778
2008年度	59	18	137	134	12	78	40	161	148	30	55	872
2009年度	38	11	137	133	14	82	41	253	121	35	42	907
2010年度	45	25	170	138	22	85	46	322	163	25	34	1,075
2011年度	67	2	171	223	9	98	50	302	130	19	36	1,107
2012年度	47	6	140	175	7	153	58	389	137	6	82	1,200
2013年度	51	8	145	202	8	84	76	400	83	6	71	1,134
2014年度	75	11	23	221	6	81	112	438	77	8	113	1,165
2015年度	77	6	124	178	2	57	122	526	82	3	134	1,311
2016年度	79	3	46	312	2	28	165	456	145	2	109	1,347
2017年度	95	1	21	343	1	18	195	400	150	0	110	1,334
2018年度	84	0	12	319	0	7	254	482	87	0	110	1,355
2019年度	75	1	8	243	0	8	365	497	146	0	87	1,430
2020年度	52	0	4	301	0	1	425	433	132	1	82	1,431
2021年度	73	0	2	306	0	1	422	302	134	0	76	1,316
2022年度	116	0	1	300	0	1	419	264	173	0	86	1,360
2023年度	132	0	0	351	0	0	400	191	202	0	91	1,367
2024年度	88	0	0	304	0	0	457	171	205	0	88	1,313
2025年度	98	0	0	235	0	0	368	109	165	0	64	1,039
合計	1,940	155	1,891	5,037	276	1,467	4,393	6,367	3,056	305	1,642	26,529

2025年12月末現在

*1: カッコ内は移植数のうち、コンピュータシステムにデータが登録されていない数です。

・速報値のため後日修正する場合があります。

・2003年～2010年の間、複数さい帯血移植(2本のさい帯血を同時に移植)を72例実施しています。

出典：造血幹細胞移植情報サービス

(3) 各臍帯血バンクからの供給本数

<年度集計>

年	日赤北海道		日赤関東甲信越				中部	日赤近畿	兵庫	日赤九州		合計
	日赤北海道	宮城	東京	日赤関東甲信越	神奈川*1	東海大学				中国四国	日赤九州	
1996年度	0	0	0	0	1 (1)	0	0	0	0	0	0	1
1997年度	0	0	0	0	7 (3)	4	5	0	4	0	0	20
1998年度	5	0	6	2	21 (16)	6	16	0	18	0	4	78
1999年度	22	0	27	8	19 (10)	8	18	0	10	0	5	117
2000年度	33	0	39	18	8 (5)	12	39	0	19	5	4	177
2001年度	46	0	45	5	6	36	30	0	46	8	9	231
2002年度	65	1	46	33	6	60	34	0	47	12	6	310
2003年度	123	5	114	127	19	136	59	6	105	30	14	738
2004年度	110	12	82	113	32	149	40	25	62	29	25	679
2005年度	59	14	122	103	31	118	34	52	93	38	25	689
2006年度	70	16	138	118	32	126	52	71	78	27	45	773
2007年度	76	16	154	111	17	64	56	136	112	28	44	814
2008年度	66	18	145	140	13	77	40	165	158	35	56	913
2009年度	37	12	135	134	14	88	44	264	130	34	47	939
2010年度	47	24	177	143	23	91	43	323	172	27	33	1,103
2011年度	65	2	174	228	9	100	51	318	132	18	39	1,136
2012年度	53	6	142	176	8	157	62	401	147	6	79	1,237
2013年度	50	9	157	212	7	80	80	409	82	7	76	1,169
2014年度	75	11	16	222	6	85	116	467	79	7	115	1,199
2015年度	82	6	125	189	3	56	123	524	82	3	138	1,331
2016年度	82	3	47	323	1	30	168	470	157	2	106	1,389
2017年度	98	1	21	351	1	16	199	409	148	0	112	1,356
2018年度	87	0	13	324	0	11	262	483	90	0	110	1,380
2019年度	78	1	9	245	0	8	374	525	148	0	93	1,481
2020年度	50	0	4	309	0	0	432	445	134	1	80	1,455
2021年度	77	0	2	308	0	1	433	298	142	0	80	1,341
2022年度	120	0	1	302	0	1	428	276	177	0	87	1,392
2023年度	131	0	0	355	0	0	397	190	208	0	95	1,376
2024年度	90	0	0	315	0	0	468	172	210	0	90	1,345
2025年度	98	0	0	242	0	0	365	116	162	0	62	1,045
合計	1,995	157	1,941	5,156	284	1,520	4,468	6,545	3,152	317	1,679	27,214

2025年12月末現在

*1:カッコ内は供給数のうち、コンピュータシステムにデータが登録されていない数です。
 ・速報値のため後日修正する場合があります。

出典：造血幹細胞移植情報サービス

(4) 認定特定非営利活動法人兵庫さい帯血バンクの令和6年度臍帯血供給等実績

	R6 実績	R6 計画	R5 実績
採取数	3,581	2,880	2,818
搬送数	1,743	1,425	1,425
仮保存数	442	370	363
本保存数	421	350	348
公開数	349	340	350
出庫数	210	200	208
移植数	205	200	202

【採取協力施設数】

23施設

神戸市 10施設
 姫路市 4施設
 尼崎市 3施設
 明石市 1施設
 西宮市 3施設
 伊丹市 1施設
 高砂市 1施設

(参考) 日曜・祝日の臍帯血の搬送・受入、調製保存業務実績

令和6年度4～3月：搬送185件、保存41件

令和7年度4～12月：搬送121件、保存22件

4 造血幹細胞移植の普及啓発事業の実施状況

(1) 骨髄バンク事業

ア 骨髄等ドナー登録事業

効果的なドナー登録の推進を図るため、県、保健所設置市、ボランティア団体、血液センター等が連携し、献血会に併せて骨髄等のドナー登録を受け付ける献血併行型骨髄等ドナー登録会を実施している（実績等は表1のとおり）。

イ 骨髄バンク事業推進連絡調整会議

県（薬務課・健康福祉事務所）、保健所設置市、（公財）日本骨髄バンク、兵庫県赤十字血液センター、ボランティア団体等の関係機関が、相互の連絡を密にし、より効果的な事業展開を行うため令和7年8月5日に開催した。

ウ 骨髄ドナー確保等活動支援金の実施【令和6年度交付要件変更】

骨髄等ドナー休暇制度等を導入した企業に10万円、骨髄等移植に関する普及啓発、社内講習会等を実施した企業に2万円を交付している（事業実績等は表2のとおり）。

エ 骨髄等移植ドナー助成事業

骨髄等移植に係る経済的・心理的負担を軽減し、移植事業の推進を図るため、県内市町が骨髄等を提供するドナーが提供に要した日数に対して事業に対して補助金（補助率1/2）を交付することにより、ドナー登録者の拡大と骨髄等の移植の推進を図る（事業実施状況等は表3のとおり）。

オ 骨髄バンク推進月間の実施（10月に全国一斉）

啓発ポスターの県内一斉掲示、リーフレットの配付を行う。

カ 大学生等を対象とした造血幹細胞移植推進特別講義

若年世代に対して、造血幹細胞移植についての正しい知識の取得と深い理解を求めるために、大学生を対象とした、大学生を対象にした講座開設による普及啓発を実施している（実績等は表4のとおり）

(2) 臍帯血バンク事業

臍帯血移植に関する正しい知識を妊産婦はじめ、広く県民に普及啓発するとともに、臍帯血採取技術の向上を図るため、次の事業を認定NPO法人兵庫さい帯血バンクに委託して実施する。

ア 臍帯血移植普及啓発資材の作成・配付

内 容：リーフレット	30,000部
ボールペン	5,000本
ポケットファイル（A5）	1,000枚

配布先：臍帯血採取協力医療機関、関係ボランティア団体 等

イ 臍帯血採取従事者・ボランティア合同研修会

内 容：臍帯血採取従事者の採取技術の向上と啓発・搬送ボランティア等の資質向上のための研修会を令和8年3月5日に実施予定。

(3) 骨髄バンク及び臍帯血バンク功労者に対する顕彰

(兵庫県献血推進協議会長感謝状の贈呈)

ア 選考基準

(ア) 5年以上にわたり骨髄バンク事業、臍帯血バンク事業の普及啓発等のボランティア活動等を積極的に行っている者

(イ) 5年以上にわたり骨髄バンクドナー登録に協力している団体で、次のいずれかに該当する者

① 当該団体に属するドナー登録者が毎年概ね15名以上であり、他の模範として認められる団体

② ドナー登録会の開催に、年2回以上協力しており、ドナー登録者が概ね年間10名以上であり、他の模範と認められる団体

③ 5年以上わたり臍帯血の採取協力医療機関として臍帯血バンクを支援している者

イ 令和7年度贈呈者数

団体 2

個人 4

【表 1】 県内の骨髄ドナー登録者数

① 兵庫県内での献血併行型骨髄ドナー登録会での登録者数の推移

年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
実施回数	147回	138回	135回	75回	75回	122回	152回	114回
登録者数	1,204名	1,079名	1,172名	459名	717名	705人	864人	773人

兵庫県赤十字血液センター集計

② ①のうち兵庫県主催分の登録会における登録者数の推移

年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
実施回数	39回	37回	37回	27回	30回	35回	31回	30回
登録者数	345名	329名	306名	185名	228名	237名	197名	232名

兵庫県薬務課集計

【表 2】 勤労者の骨髄ドナー確保等活動支援金年度別交付事業所数

年 度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度 (12月末)
事業所数	2	3	1	1	11	7

兵庫県薬務課集計

【表3】骨髄等移植ドナー事業補助金の交付

① 県内市町事業実施状況（令和7年12月1日現在 35市町で実施）

開始年度	市町名
R2	西宮市【1】
R3	神戸市、姫路市、尼崎市、豊岡市、加古川市、川西市、三田市、養父市、朝来市、上郡町【10】
R4	明石市、洲本市、赤穂市、南あわじ市、淡路市、宍粟市、稲美町、播磨町【8】
R5	芦屋市、伊丹市、高砂市、小野市、丹波篠山市、加東市、たつの市【7】
R6	相生市、西脇市、宝塚市、三木市、加西市、丹波市、多可町、佐用町【8】
R7	太子町【1】

兵庫県薬務課調べ

② 令和3年度補助実績

6市に対して総額1,220,000円補助（対象者は13人）

③ 令和4年度補助実績

9市に対して総額3,530,000円補助（対象者は37人）

④ 令和5年度補助実績

12市町に対して総額2,200,000円補助（対象者は23人）

⑤ 令和6年度補助実績

18市町に対して総額4,870,000円補助（対象者は52人）

【表4】大学生等を対象とした造血幹細胞移植推進特別講義

実施年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度 (予定)
実施校	5校	6校	5校	6校	5校	7校
受講者数	807人	903人	795人	939人	958人	1,037人

兵庫県薬務課集計

※ 令和7年度実施校（予定含む）

兵庫大学（加古川市）、神戸薬科大学（神戸市）、姫路大学（姫路市）、
神戸学院大学（神戸市）、園田学園女子大学（尼崎市）、
姫路市医師会看護専門学校（姫路市）、丹波市立看護専門学校（丹波市）

令和6年度大学生等を対象とした造血幹細胞移植推進特別講義実施結果

1 実施結果

5校 958名が受講

【実施結果詳細】

実施年月日	実施大学等	学部等	受講者数	備考
令和6年5月17日	兵庫大学	看護学部3年生	110名	
令和6年7月12日	神戸薬科大学	薬学部1回生	344名	
令和6年7月22日	園田学園女子大学	人間健康学部 人間看護学科	171名	2年生 81名 3年生 90名
令和6年11月8日	神戸学院大学	薬学部4回生	200名	
	神戸学院大学	栄養学部3回生	60名	11月8日の録画を聴講
令和6年12月19日	姫路市医師会看護専門学校	3回生	73名	

2 講義内容等

- (1) 移植コーディネーターによる移植医療現場の状況等を踏まえた講義
講師 (公財) 日本骨髄バンク 小川 祐子
- (2) 患者による治療経験を踏まえた講義
講師 神戸骨髄献血の輪を広げる会 高橋 晶子
- (3) 医師による造血幹細胞移植の現状や治療等の講義
講師 NPO法人兵庫さい帯血バンク 甲斐 俊朗

3 アンケート結果 (回答数 762名)

- (1) これまでに、骨髄ドナー登録についての知識の有無。

回答	有り	無し
人数	425人	337人
構成比	55.8%	44.2%

- (2) これまでに、臍帯血提供についての知識の有無

回答	有り	無し
人数	122人	640人
構成比	16.0%	84.0%

- (3) 講義の満足度

回答	参考になった	参考にならなかった	どちらともいえない
人数	745人	6人	11人
構成比	97.8%	0.8%	1.4%

- (4) 講義の内容

回答	難しかった	わかりやすかった	どちらともいえない
人数	8人	683人	71人
構成比	1.0%	89.6%	9.3%

(5) 今後、希望する講義内容（複数回答可）

回 答	骨髄・臍帯血移植 について	献血について	ボランティア活 動について	患者団体につい て	その他
人 数	324 人	331 人	181 人	139 人	4 人
構成比	33.1 %	33.8 %	18.5 %	14.2 %	0.4 %

その他：臓器移植、他のがん（小児がん等）

(6) 講義で興味深かった内容（自由記載）

別紙1のとおり

(7) 骨髄ドナー登録の意思

回 答	登録したい	前向きに考えたい	登録したくない	登録済
人 数	59 人	626 人	69 人	8 人
構成比	7.7 %	82.2 %	9.1 %	1.0 %

(8) （女性のみ）臍帯血提供の意思

回 答	提供したい	前向きに考えたい	提供したくない	わからない
人 数	83 人	413 人	29 人	153 人
構成比	12.2 %	69.9 %	4.3 %	22.6 %

(9) （男性のみ）パートナーに対しての臍帯血提供について

回 答	提供を勧めたい	提供は勧めない	わからない
人 数	35 人	25 人	95 人
構成比	22.6 %	16.1 %	61.3 %

(10) 献血経験

回 答	有り	無し
人 数	128 人	588 人
構成比	17.9 %	82.1 %

(11) （献血経験者のみ）献血したことのある種類

回 答	200mL 献血	400mL 献血	成分献血	不明
人 数	46 人	80 人	15 人	16 人
構成比	29.3 %	51.0 %	9.6 %	10.2 %

(12) （献血経験者のみ）献血しようと思ったきっかけ（複数回答可）

回 答	テレビ・新 聞・ラジオ での呼びかけ	街頭や学校等 での呼びかけ	住んでいる市 町の広報誌で の呼びかけ	ポスターやリ ーフレット等 での呼びかけ	特にない	その他
人 数	7 人	54 人	9 人	8 人	29 人	38 人
構成比	4.8 %	37.2 %	6.2 %	5.5 %	0.2 %	26.2 %

その他：職場・学校・地域に献血車がきたから、親・友人・先生のすすめ、献血が好き
知人が白血病になった、人助けがしたい、時間があつた、SNS を見て興味がわい
た、高校のグループ研究で取り上げてたて実際に行ってみた、お菓子・飲み物や記
念品がもらえる、血液型が知りたかった、血液検査の結果が分かる

(13) (献血未経験者のみ) 献血したことがない理由 (3つまで選択可)

回 答	人 数	構成比
受付をしたが、基準に達していなくて断られたから	45 人	4.2 %
献血をしている場所に入りづらかったから	77 人	7.2 %
どこで献血ができるかわからなかったから	59 人	5.5 %
献血をする機会がなかったから	218 人	20.3 %
時間がかかりそうだったから	111 人	10.3 %
自分が献血をしなくても他の誰かがやると思ったから	36 人	3.4 %
献血した血液が無駄にされていると聞いたことがあるから	11 人	1.0 %
針を刺すのが痛そうだから	134 人	12.5 %
健康上の理由でできないから	77 人	7.2 %
薬を服用しているから	60 人	5.6 %
恐怖心があるから	181 人	16.9 %
そもそも献血をしたくないから	27 人	2.5 %
その他	38 人	3.5 %

その他：逆に感染する可能性があると感じたことがある、貧血気味、忙しい、自己免疫疾患がある、採血をした時にVVR（血管迷走神経反射）を起こしたことがある
血管が細い

《 協 議 事 項 》

令和8年度兵庫県献血等推進計画（案）

前 文

病気や事故の際に必要な輸血や、白血病などの血液難病に有効な造血幹細胞移植（骨髄又は末梢血幹細胞（以下「骨髄等」という。）移植及び臍帯血移植）は、善意の提供者があって初めて成り立つ治療法である。

献血については、年間を通じて献血者を安定的に確保し、輸血用血液を医療機関に安定的に供給するとともに、特に若年層の減少が著しくなっていることから、将来に向け若年層への普及啓発を一層推進する。

また、造血幹細胞移植については、「移植に用いる造血幹細胞の適切な提供の推進に関する法律」の趣旨を踏まえ、移植希望者の早期移植の実現に向け、造血幹細胞移植のより一層の推進に努める。

さらに、本計画の推進にあたっては、阪神・淡路大震災や東日本大震災から学んだ教訓を活かし、人と人、人と地域の絆やつながりを大切に、県、各市町、日本赤十字社兵庫県支部、兵庫県赤十字血液センター、献血推進団体、公益財団法人日本骨髄バンク、認定特定非営利活動法人兵庫さい帯血バンク（以下「兵庫さい帯血バンク」という。）及びボランティア等が一体となって、県民の参画と協働を基本に取り組みものとする。

なお、この計画は、安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律（昭和31年法律第160号）第10条第5項の規定に基づく献血の推進に関する計画を包含するものである。

I 献血により確保すべき血液の目標量

国が定めた全国の確保量を基に、日本赤十字社が各都道府県と協議のうえ国の認可を受けて決定した配分によると、兵庫県の令和8年度に献血により確保すべき血液の目標量は91,621L（原料血漿確保目標量：51,095L）となっている。

県では、この目標量を確保するため、採血種類別の献血受付け者目標数、献血者目標数及び血液目標量を、下表のとおりとし、以下に掲げる事項等の実施により、県内全域の連携のもとに献血参加者の確保を図る。

但し、輸血用血液製剤の需要は日々変動することから、兵庫県赤十字血液センターは、血液製剤の日々の需給状況等を把握し、献血者数の調整に努めるとともに、近畿ブロック血液センターの広域的な需給管理のもとで献血の受入と供給を行い、血液製剤の更なる安定供給を図る。

(単位：人)

(単位：L)

区 分	献血受付者数	献血者数	血液量
200mL献血	3,100	2,824	565
400mL献血	160,400	144,107	57,643
小 計	163,500	146,931	58,208
血漿成分献血	41,600	37,398	21,582
血小板成分献血	23,700	21,356	11,831
小 計	65,300	58,754	33,413
合 計	228,800	205,685	91,621

※表示単位未満四捨五入の処理をしているため、小計・合計欄と一致しない場合がある。

また、将来にわたる血液製剤の安定供給を確保するためには、若年層の協力が不可欠であることから、平成29年度から10代、20代、30代の年間献血者数の目標値を都道府県ごとに定めている。令和8年度は下表とおり目標を設定し、その確保に向け重点的に取り組むこととする。

<年代別献血者数目標>

	10代 (16～19歳)	20代 (20～29歳)	30代 (30～39歳)
献血者数	12,315人	33,587人	37,715人

II 目標量を確保するために必要な措置に関する事項

1 献血思想の普及啓発、広報活動等

少子高齢化の進行による献血可能人口の減少、血液製剤を必要とする患者の増加や血液製剤の利用実態等について正確な情報を伝え、医療に欠くことのできない血液製剤が将来にわたって安定的に供給される体制を維持するために、若年層、企業・団体、複数回献血者をはじめ、広く県民に以下の取組を中心に普及啓発を行い、献血に対する理解と協力を求め、献血場所及び献血者の確保等を図っていくこととする。

(1) 献血推進キャンペーンの実施

ア 愛の血液助け合い運動（厚生労働省等と共催）

7月1日から同月31日の間、広く県民各層に献血思想の普及を図るとともに、特に400mL全血献血及び成分献血への理解と協力を求めるため、国、市町及び日本赤十字社との共催により、各地域の実情に応じた広報活動及び各種行事等を実施する。

イ はたちの献血キャンペーン（厚生労働省等と共催）

1月1日から2月28日の間、「はたち」の若者を中心として広く県民各層に対し献血への理解と協力を求めるため、国、市町及び日本赤十字社との共催により、学生等による自主的な街頭啓発や各地域の実情に応じた広報活動及び各種行事等を実施する。

(2) 学生献血推進イベント事業の実施

兵庫県学生献血推進協議会を中心とする学生ボランティアとの連携により、夏季及び冬季等において、学生ボランティアが中心となって企画した啓発イベントを実施する。

(3) 若年層への普及啓発

ア 高校生献血推進ボランティア事業の実施

次代の献血を担う高校生が、同世代からの呼びかけにより、身近なボランティアである献血への関心と理解を深めるとともに、地域における献血思想の普及啓発を図るため、高校生ボランティア有志が文化祭等の機会を活用し、地域献血推進団体等とともに、献血啓発イベント（献血啓発コーナーの設置によるパネル展示等）を展開する。

イ 献血セミナーの実施

兵庫県赤十字血液センターは、献血の意義や血液製剤について楽しく学べる「献血セミナー」を、高校生、専門学校生、大学生を対象に実施する。さらに将来の献血協力者育成の観点から、親子献血セミナーや小中学校での献血セミナーなど、幼少期への啓発にも努める。また、セミナーの機会を活用し、献血Web会員サービス「ラブラッド」への登録を働きかける。

ウ 高校生・大学生献血の推進

若いうちに献血を経験することが、その後の献血行動により効果をもたらすとされていることから、理解の得られた高校・大学等に献血バスを配車して献血会を開催する。また、卒業式に合わせた卒業献血など、献血ができる機会の提供に努める。

エ 小学校・中学校・高校・大学・専門学校等・企業への働きかけ

県及び市町は、兵庫県赤十字血液センターと連携し、教育委員会及び高校・大学・専門学校等に献血啓発事業に関する情報提供を行い、協力を働きかける。また、次世代の献血者確保に向け、献血可能年齢より若い年齢層である小学生・中学生に対しても、献血への理解を促すよう努める。

兵庫県赤十字血液センターは、企業等に対して、社員研修や社内広報等の機会

を利用して「献血セミナー」や献血に関する情報提供等を実施し、正確で理解しやすい情報の伝達を図るとともに、特に20代、30代の若年層労働者の献血促進について協力を求める。

(4) 広報誌（紙）、ラジオ、テレビ等による広報

献血キャンペーン等の時期に合わせ、県及び各市町の広報誌（紙）に広報記事を掲載するとともに、県が提供するテレビ・ラジオ番組及び各市町の広報メディア（有線放送、ケーブルテレビ、インターネット等）を活用し、献血参加の呼びかけ及び献血思想の普及啓発を行う。

兵庫県赤十字血液センターは、オンラインでのセミナー開催や、X、Instagram等のSNS等を活用した情報発信を効果的に行い、若年層の献血推進を図る。

(5) 啓発資材等の作成

献血に関する正しい知識の普及と献血への参加を呼びかけるため、啓発資材等を作成し、イベント会場等で配布する。なお、作成にあたっては、パソコン、タブレット等による利用にも留意する。

(6) 職場における献血の推進

輸血用血液製剤の安定供給を図るため、官公庁及び企業等における職場献血を推進するとともに、緊急的に計画外献血を実施する必要がある場合には、積極的な協力を求める。特に、血液の確保が困難となる年末年始の時期には、官公庁及び企業等に対し一層の協力を依頼する。

また、兵庫県赤十字血液センターは、官公庁及び企業等に対して、「献血セミナー」を実施し、正しい知識の普及啓発を図り、職場献血において、特に20歳代・30歳代の献血促進について協力を求める。

なお、兵庫県赤十字血液センターは、職場献血の実施にあたって、受付時間の調整等、職員が参加しやすい環境づくりに努める。

(7) 複数回献血の推進

輸血用血液製剤の安定供給を図るとともに、特に需要の高まっている成分献血への協力者を増やすため、兵庫県赤十字血液センターは、WEBでの献血予約可能な「ラブラッド」への加入促進に努めるとともに、献血の予約実施が会場の混雑回避等、感染対策として有効であることを広く周知し、安心安全な献血環境の保持に努める。

また、献血バスでの献血者を献血ルームに再来するよう促す方策にも取り組む。

(8) 200mL全血献血の在り方

県、市町、兵庫県赤十字血液センターは、医療機関からの需要、血液製剤の安全性の観点から、献血を推進する上では、400mL全血献血及び成分献血を推進する。

しかしながら、将来にわたる献血協力者の確保という観点からは、若い時期の献血経験が重要であることから、兵庫県赤十字血液センターは、高校生等の初回献血時には、献血に関する正しい情報の提供を行うなど、献血者に安心・安らぎを与える環境作りに努めるとともに、医療需要を踏まえた上で200mL全血献血による受入れを行い、できる限り献血を経験してもらうよう努める。

(9) 献血者等へのアンケートの実施

効果的な普及啓発活動を行うため、上記高校生献血ボランティア事業や献血セミナー実施等にアンケート調査を実施し、その結果の解析を行う。

2 献血時の健康管理サービスの充実

兵庫県赤十字血液センターは、献血者の健康管理に資する検査を行い、献血者の希望を確認してその結果を通知する。

3 献血推進組織の育成に関する事項

(1) 市町献血推進協議会等の運営

市町は住民参加の血液確保対策を推進するため、市町献血推進協議会等を計画的に開催し、血液事業の現状に立脚して、次の事項その他についての対策を協議決定し、その実行を図る等の実質的な運営に努める。

ア 献血計画

イ 献血会の育成強化対策（協議会委員の関係団体における対策を含む。）

ウ 住民の献血思想の普及を図るための広報活動対策

(2) 市町等担当者の研修

県及び兵庫県赤十字血液センターは、各地域の献血会及び協力団体等からの窓口となる各市町及び県健康福祉事務所（保健所）の担当者が、血液事業について共通理解を深め、住民に必要な情報提供を行い、的確に相談に応じることが出来るよう、献血推進担当者会議等を活用して研修を行う。

4 献血功労者等の顕彰（表彰及び感謝）

(1) 兵庫県献血推進協議会長感謝状の贈呈

献血運動の推進に特に顕著な功績を示した献血功労団体等に対し、兵庫県献血推進協議会長から感謝状を贈呈する。

(2) 厚生労働大臣表彰状及び感謝状の推薦及び伝達

献血運動の推進に特に顕著な功績を示した献血功労団体等について、厚生労働大

臣に推薦を行うとともに、表彰状及び感謝状の伝達を行う。

Ⅲ 血液製剤の適正使用等の推進

輸血療法の専門家で構成する兵庫県合同輸血療法委員会（事務局：兵庫県赤十字血液センター）、兵庫県赤十字血液センターと連携協力して、県内医療機関の輸血医療従事者を対象に、安全かつ適正な輸血療法の推進と血液製剤の適正使用等の推進を図るための研修会を開催する。

Ⅳ 骨髄等ドナーの確保及び臍帯血の質の向上

1 現状

(1) 骨髄バンク事業

公益財団法人日本骨髄バンク（前身：財団法人骨髄移植推進財団）が設立されて35年が経過し、同バンクを通じた非血縁者間骨髄等移植に用いられた骨髄等採取数は令和7年12月末現在、全国で30,293件に上っている（そのうち、平成22年度から幹旋業務が開始された末梢血幹細胞移植は2,770件）。

また、同バンクへのドナー登録者数は、令和7年12月末現在、全国で565,837人、兵庫県内で20,369人に達している。

しかしながら、移植を希望し骨髄バンクに登録した年間患者数に対し、移植を受けられる率は54.6%にとどまっており、移植希望者への早期移植の実現に向け、一人でも多くのドナー登録者を確保する必要があるため、積極的に骨髄等のドナー登録を推進している。

また、ドナー候補者に選ばれたドナー登録者が都合により骨髄提供に至らないケースが見られることから、骨髄提供しやすい環境づくりが課題となっている。

(2) 臍帯血バンク事業

臍帯血バンク事業は1997年（平成9年）に始まり、全国でこれまでに移植に用いられた臍帯血は令和7年12月末現在26,529本に上っている。また、移植用に公開されている保存臍帯血は同時点で10,601本となっている。

本県には、全国6か所の公的臍帯血バンクのひとつである兵庫さい帯血バンクがあり、23か所の臍帯血採取協力医療機関及び搬送・説明ボランティアの協力のもと、臍帯血バンク事業を展開している。同バンクは、安全で良質な臍帯血の提供に向け、

採取協力医療機関の確保と採取技術の向上、調製保存作業手順の見直し、妊婦をはじめ県民へのさらなる普及啓発に努め、造血幹細胞移植の一層の推進に取り組んでいる。

2 推進方策

(1) 骨髄等ドナーの確保

ア 献血併行型骨髄等ドナー登録会の開催

効果的なドナー登録の推進を図るため、市民イベント及び企業・官公庁・大学等で実施される献血会に併せて、献血併行型骨髄等ドナー登録会の開催を積極的に推進する。

特に、ドナー登録期間が長い若年層ドナーの登録を推進するため、大学・専門学校や若年層の多い献血会場など、新規の登録会場の開拓に努める。

イ 骨髄バンク説明員体制の充実

ドナー登録を呼びかける説明員の確保充実を図るため、ボランティア団体と連携し、説明ボランティアの募集、養成を行う。

また、献血ルームや献血バスにおいてもドナー登録が円滑に行われるよう、兵庫県赤十字血液センター職員の骨髄等移植に関する知識習得を進める。

ウ ドナーが骨髄提供しやすい職場環境づくり

平成 29 年度から実施している骨髄ドナー確保等活動支援金制度を周知し、ドナー候補者に選ばれたドナー登録者が骨髄提供しやすい職場環境づくりを企業等に働きかける。

エ 骨髄等移植ドナー助成事業の推進

骨髄等を提供した者に対する助成に要した市町の経費に対して、県がその 1/2 を支援する骨髄等移植ドナー助成事業の普及を進め、県内市町の助成事業実施を促進することにより、ドナーの負担軽減及び、ドナー登録者の確保と移植率の向上を図る。

(2) 臍帯血に係る研修会の開催

ア 臍帯血搬送・啓発ボランティア等研修会の開催

臍帯血の搬送及び普及啓発ボランティアの研鑽並びに活動発表の場となる研修会を開催する。

イ 臍帯血採取技術研修

臍帯血採取従事者（産科医師、助産師等）を対象に、より細胞数の多い臍帯血の確保を図るため、採取技術向上を目的とした研修会を開催する。

(3) 造血幹細胞移植に関する普及啓発の充実

ア 造血幹細胞移植推進特別講座の開催

造血幹細胞移植の推進を図るためには、若年層のドナーを確保することが重要であることから、大学生等を対象に造血幹細胞移植に関する講演会等を開催する。

なお、講演会等においては、献血啓発等も併せて行い、将来の献血基盤の確保に努める。

イ 高校生等を対象とした啓発セミナーの実施

兵庫県赤十字血液センターが行う「献血セミナー」に、骨髄等移植に関する基礎知識を加えることにより、若年層に対する啓発に努める。

ウ 企業を通じた普及啓発の促進

ドナー登録年代の勤労者を擁する企業による普及啓発活動を支援する。

エ 妊産婦等に対する普及啓発

臍帯血を安定的に確保するため、妊産婦のほか広く県民に対して、啓発資材を作成・配布し、臍帯血移植に関する普及啓発を行う。

(4) 骨髄バンク及び臍帯血バンク事業推進功労者の顕彰

ア 兵庫県献血推進協議会長感謝状の贈呈

骨髄バンク及び臍帯血バンク事業の推進に顕著な功績のある団体等に対し、兵庫県献血推進協議会長から感謝状を贈呈する。

イ 厚生労働大臣感謝状の伝達

臍帯血移植の治療成績向上に大きな功績のある施設に対して贈呈される、厚生労働大臣感謝状の伝達を行う。

(5) 兵庫さい帯血バンクへの支援

兵庫さい帯血バンクに対し、移植に適した安全で有核細胞数の多い臍帯血の安定的な確保のための支援を行うとともに、同バンクが研究用臍帯血の提供等により、再生医療の発展に寄与していることをPRすることで、医療機関、関係団体及び県民の臍帯血バンク事業に対する理解を深め、幅広い協力を呼びかける。

V その他

1 血液製剤の安全性の向上に関する取組

血液製剤の安全性の確保のための取組の一環として、献血における本人確認や問診の徹底はもとより、HIV等の感染症の検査を目的とした献血を行わないよう、広く県民に周知徹底を図る。

2 災害時等における輸血用血液の確保

阪神・淡路大震災や東日本大震災の教訓を踏まえ、災害時や新興・再興感染症のまん延下の状況においては、必要な輸血用血液を適切かつ迅速に確保するため、兵庫県赤十字血液センターが取り組む、安心・安全な献血環境の保持や、献血者の感染防止対策を支援するとともに、関係機関と十分な連携を図り、必要とされる献血量を把握した上で、報道機関等の協力を得て様々な広報媒体を活用して積極的な献血を呼びかける。

なお、確保された血液については、兵庫県赤十字血液センターの機能を十分に活用するとともに、日本赤十字社兵庫県支部と連携を図り、医療現場への円滑な供給を図る。

令和8年度 献血受付者目標数について

1 目標数設定の考え方

県民医療に必要な輸血用血液の安定確保、並びに、血漿分画製剤用原料血漿の確保目標量（都道府県割当量）の達成

2 令和8年度において必要な献血人員と血液量

- 必要とされる血液量 **91,621 L (※)**
(※) 厚生労働省より提示された全国の必要量を、日本赤十字社において調整し、都道府県と協議して決定
- 必要とされる献血者数
輸血用血液製剤の需要見込みと原料血漿の確保目標量から、献血者数を算出
(近畿ブロック血液センター作成資料のとおり)
- 必要とされる献血受付者目標数
受付者目標数は、必要献血者数に、過去3か年の問診及び血色素検査等により献血出来なかった率（献血不適格者率）を逆算して算出した。

	献血受付者数	必要献血者数
200mL献血	3,100 人	2,824 人
400mL献血	160,400 人	144,107 人
血漿成分献血	41,600 人	37,398 人
血小板成分献血	23,700 人	21,356 人
計	228,800 人	205,685 人

参考:算出根拠

過去実績(R4～R6年度)

	献血 受付者数(a)	献血者数(b)	適格者率
R4	238,690	214,880	0.90024718
R5	234,236	210,885	0.90030994
R6	234,239	209,451	0.89417646
計	707,165	635,216	0.89825713

R8年度献血受付者目標数の算出

	目標 献血者数(x)	適格者率(y)	献血受付者 目標数(x÷y)	10の位 切り捨て
200mL	2,824	0.89825713	3,144	3,100
400mL	144,107	0.89825713	160,430	160,400
血漿成分	37,398	0.89825713	41,634	41,600
血小板成分	21,356	0.89825713	23,775	23,700
計	205,685		228,982	228,800